

2025 年度 科学技術社会論学会 年次研究大会プログラム

12 月 6 日(土)

【第 1 セッション／土曜日】 9:00-10:30

A-1-1 【GS】 教育と大学

座長：原 塑（東北大学）

○野村 祐子（独立研究者）

科学コミュニケーションの機能不全と中等理科教育の関連性に関する一考察

○塚原 修一（関西国際大学）

世界的競争力をめざす連携による地域大学振興—韓国グローバル大学 30 政策—

○宇都宮 俊星（藤沢翔陵高等学校）

社会的課題を基盤とした教育プログラムの開発・実践—教育現場で扱う合意形成の意義と諸課題の整理—

B-1-1 【GS】 科学コミュニケーション論

座長：山口 富子（国際基督教大学）

○田中 丹史（東京大学）

科学技術コミュニケーションと倫理：アカウンタビリティ、脆弱性、系統的知識

○加藤木 ひとみ（国立環境研究所）

サイエンスコミュニケーションの規範的介入性をめぐる試論—「べき論」の切り分けに基づく再考—

○志田 あやか（理化学研究所），佐藤 桃子（理化学研究所），永井 智哉（理化学研究所）

プレスリリースに対する研究者の意識調査

C-1-1 【GS】 軍事・デュアルユース

座長：綾部 広則（早稲田大学）

○渡邊 康宏（東京科学大学）

1980 年代米国における知の軍事化と NSDD-189 の成立過程

○大庭 弘継（立教大学）

未知の技術に市民はどう答えたか？：新興デュアルユース技術に関する社会調査
(2025 年 8 月実施) を読み解く

○吉野 太郎 (関西学院大学)

科学者運動の現在—反戦運動と科学者の社会的責任

E-1-1 【OS】 専門的助言 1：その倫理と法

オーガナイザー：田中 麻莉子 (株式会社日本農業)

○田中 麻莉子 (株式会社日本農業)

はじめに：「専門家助言」とは何か—その成立条件の整理

○鬼頭 秀一 (東京大学)

規範倫理学と専門的助言

○米村 滋人 (東京大学)

専門家助言と法的思考：生命倫理学，ELSI 論との対比を兼ねて

F-1-1 【GS】 AI と社会

座長：見上 公一 (慶應義塾大学)

○小松 久美子 (慶應義塾大学)

AI 推進度に対する国民文化の影響：国際比較研究

○趙 允彬 (東京大学)，横山 広美 (東京大学)

AI の環境負荷は「不正義」の問題である—日韓市民調査からの示唆

○傅 夢媛 (早稲田大学)，楊 鯤昊 (芝浦工業大学)，田中 幹人 (早稲田大学)

AI 検索と誤情報：気候変動情報におけるハルシネーション脆弱性

【第2セッション／土曜日】 10:45-12:15

A-1-2 【GS】 科学と信頼

座長：塚原 修一（関西国際大学）

○陳 成（東京科学大学），調 麻佐志（東京科学大学）

多義的な「不確実性」と政策判断—気仙沼市におけるポスト 3.11 復興と津波シミュレーション

○加藤 穂香（国際基督教大学），山口 富子（国際基督教大学）

「信頼できる食品」をめぐる市民の語りと対抗的イマジナリー：ゲノム編集食品の事例から

○SON Joonwoo（九州大学）

数字と主観性—1950 年代日本の公的統計における「信頼」の獲得をめぐる論争史

B-1-2 【GS】 科学の公衆理解

座長：横山 広美（東京大学）

○佐藤 桃子（理化学研究所）

日本における消費者直販型の遺伝祖先検査の特徴と宣伝

○竹村 昌江（無所属），宮本 道人（筑波大学）

SF 思考によるネガティブ・ケイパビリティ・レディネス生成の可能性：外来種問題を題材とした市民 WS を通して

○石川 肇（特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会），有村 直子（バンドー神戸青少年科学館）

SF プロトタイピングを用いた未来の食についての市民対話の実践

C-1-2 【GS】 バイオポリティクス

座長：川本 思心（北海道大学）

○花岡 龍毅（常磐大学）

生命科学/バイオテクノロジーと現代資本主義の「段階」—宇野理論の応用研究—

○楊 澍（大阪大学）

ゲノム編集技術をめぐる国家ガバナンス

○村瀬 泰菜（東京大学）

チェコの産科医療と女性身体の生-資本化

D-1-2 【GS】 知の生成過程

座長：日比野 愛子（弘前大学）

○宮部 裕貴（東京大学）

研究者は学際という語をどのように用いているのか？—期待の社会学への定量的アプローチ—

○見上 公一（慶應義塾大学）

「バイオものづくり」への期待を読み解く

○澤崎 賢一（総合地球環境学研究所）

映像を方法とする知の共創：〈メタ映画〉と〈コモンズ映画〉の理論的考察

E-1-2 【OS】 専門的助言 2：越境的協働

オーガナイザー：本堂 毅（東北大学）

○本堂 毅（東北大学）

専門知の適用限界と越境

○渡辺 千原（立命館大学）

専門家証言における越境的協働とその応用可能性

○平田 光司（高エネルギー加速器研究機構）

越境的協働の科学論的基礎

F-1-2 【GS】 AI の法と倫理

座長：田中 幹人（早稲田大学）

○秋間 建人（一橋大学）

AI 倫理は応用倫理学たりうるか？—規範倫理の観点から先行研究を再検討する—

○秋葉 豊（名古屋大学）

自律的な AI システムの Meaningful Human Control と道徳的想像力

○中山 敬太（早稲田大学）

不確実性を伴う先端科学技術リスクをめぐる法的予防措置の「標準化」の意義と可能性
—AI のリスクと不確実性の観点から—

12月7日(日)

【第1セッション／日曜日】 9:00-10:30

A-2-1【GS】医学

座長：東島 仁（千葉大学）

○加藤 直子（桜美林大学）

新たな感染症に関する情報と行動変容の関連の統計的解明

○小川 眞里子（三重大学）

1881年のロンドン国際医学大会はいかに実施されたか

○靳 宸（大阪大学）

チベット医学の近代化における協働的秩序の形成——アクターネットワーク理論の視点から

B-2-1【GS】災害と学び

座長：小林 俊哉（九州大学）

○平井 俊男（大阪府立長尾高等学校）

福島原発震災に関するSTEAM教育教材の開発 II：生徒の気づき

○浅野 希梨（総合研究大学院大学）

東日本大震災後の「弱き声」をめぐる言説—「震災演劇」にみる若者の声とメディア報道の比較分析—

○城下 英行（関西大学）

台湾防災教育輔導団による防災教育推進活動

C-2-1【GS】福島原発事故を考える

座長：林 真理（工学院大学）

○猪鼻 真裕（総合研究大学院大学）

原子力発電所の廃炉政策の二元制：特異領域としての福島県

○菅原 慎悦（関西大学），寿楽 浩太（東京電機大学）

事後的意味付けとしての事故調査：福島第一 IC 作動音証言をめぐる一考察

○八巻 俊憲（原子力市民委員会福島原発事故部会）

福島原発事故と市民性—拡大する「原子力公害」—

D-2-1 【GS】 ELSI

座長：三上 直之（名古屋大学）

○標葉 隆馬（慶應義塾大学）

エピジェネティクス・バイオマーカー利用をめぐる ELSI

○福本 江利子（東京大学）

日本における RRI 振興へのメタ的視点：ELSI センターについての試論を中心に

○カテライ アメリア（筑波大学）

職場における AI 監視技術の ELSI 論点

E-2-1 【OS】 集合知の源泉としてのメタサイエンス

オーガナイザー：野内 玲（広島大学）

○野内 玲（広島大学）

定性的語りと定量的分析から見る再現性の危機

○清水 右郷（宮崎大学）

ファンディングの科学と哲学

○菊地 乃依瑠（政策研究大学院大学）・黒河昭雄（神奈川県立保健福祉大学）

政策プロセスの視点から見た専門家の関与戦略—SciREX 事業の事例から—

○久保田 唯史（京都大学）

“Stepping out and looking from above”：STS とメタサイエンスが交わる場としての科学政策

△ディスカッサント 井出 和希（大阪大学）

F-2-1 【GS】 技術へのまなざし

座長：直江清孝（東北大学）

○前田 春香（京都大学）

人間へのセクハラとロボットへのセクハラへの感じ方はどう違うのか

○柴田 清（フリー）

非専門家に向けた技術に関するリテラシー —増子晟の工科教養をヒントとして—

【第2セッション／日曜日】 10:45-12:15

A-2-2 【OS】旧制大学の工学部で聴講生・専攻生・外国学生として学んだ女性たち：奈良女子高等師範学校出身者を中心に

オーガナイザー：多久和 理実（東京科学大学）

○多久和 理実（東京科学大学）

旧制東京工業大学において聴講生・外国学生・委託生として学んだ女性たち

○周 一川（神奈川大学）

旧制大学における中国人女子留学生

○志賀 祐紀（奈良女子大学）

奈良女子高等師範学校の大陸旅行における航路体験

△ディスカッサント 黒田 光太郎（名古屋大学），古川 安（総合研究大学院大学）

B-2-2 【GS】ゲノム編集のコミュニケーション

座長：柴田 清（フリー）

○三上 直之（名古屋大学），立川 雅司（名古屋大学），大澤 康太郎（名古屋大学）

ゲノム編集技術の野生生物への適用範囲に関する人びとの意見とその理由—フォーカスグループにおける熟議を通じて—

○立川 雅司（名古屋大学），三上 直之（名古屋大学），大澤 康太郎（名古屋大学）

ゲノム編集技術の野生生物への応用をめぐる諸課題

○大澤 康太郎（名古屋大学），三上 直之（名古屋大学），立川 雅司（名古屋大学）

目的に応じたファシリテーション省察の実践方法と意義：グループディスカッション型意見調査を事例に

C-2-2 【GS】原子力の社会学

座長：神里 達博（千葉大学）

○佐藤 恭子（Stanford University）

核・原子力研究における STS の射程：課題と展望

○寿楽 浩太（東京電機大学），菅原 慎悦（関西大学）

「政治主導」時代の原子力政策と「制度化された非知」：高レベル放射性廃棄物政策の事例

○定松 淳（東京大学）

原発政策批判における「決定の連鎖」論の導入

D-2-2 【OS】 ムーンショット ELSI

オーガナイザー：標葉 隆馬（慶應義塾大学）

○原 塑（東北大学）

脳・身体状態から心を読み取る技術の ELSI

○立花 幸司（千葉大学）

気象制御技術の ELSI の検討と RRI の推進に関する取り組み

○標葉 隆馬（慶應義塾大学）

Cybernetic Avatar をめぐる ELSI

○青松 京香（慶應義塾大学），標葉 隆馬（慶應義塾大学）

分身ロボットをめぐる人々の意識

E-2-2 【GS】 科学技術政策

座長：中村 征樹（大阪大学）

○千葉 庫三（東京科学大学）

日本学術会議における大型計画策定の変遷—「マスタープラン」から「未来の学術振興構想」へ

○小野田 敬（東京科学大学），伊藤 泰信（北陸先端科学技術大学院大学）

基礎と応用を統合するパスツール型研究の認識的文化—ゲノム科学における認識的文化とリサーチデザインの接合—

○菊地 乃依瑠（政策研究大学院大学）

政策タイプによる知識利用傾向の違いについて—センター・オブ・イノベーションプログラム、橋渡し研究プログラム、脳科学研究戦略推進プログラムの比較から—

F-2-2 【GS】 ケアと科学技術

座長：八木 絵香（大阪大学）

○田中 隆文（名古屋大学）

ケアの倫理のアナロジーによる，科学とローカルノレッジの対置関係の整理

○久保田 祐貴（NTT），加藤 多笑（東京大学）

関係的・ケア的な人間観からみる科学コミュニケーション—萌芽的技術を扱う実践を例に—

○青木 千帆子（筑波技術大学）

アシスティブテクノロジーの開発と科学コミュニケーション—AT 専門家へのインタビュー調査から

【第3セッション／日曜日】 13:30-15:00

A-2-3 【GS】 地球と人類

座長：城下 英行（関西大学）

○林 克己（大阪大学）

晩年ブリュノ・ラトゥールにおける「テレストリアル科学」

○深貝 保則（横浜国立大学）

創作 - 改変の科学 - 技術の射程と拡張型としての「科学（者）の社会的責任」：アルテミス、アントロポセン、そしてその先に……

○菅原 裕輝（大阪大学）

気候変動とデジタル STS

B-2-3 【OS】 気候市民会議の多様な開催を考える—2025

オーガナイザー：八木 絵香（大阪大学）

○三上 直之（名古屋大学）

気候市民会議と実験の民主主義の可能性

○八木 絵香（大阪大学） 気候市民会議の開催をめぐる多様性の模索—大阪いばらき気候市民会議を例に—

○川上 雅弘（京都産業大学）

気候変動対策の対話を志向した教材開発

○村上 正行（大阪大学）

探究学習・高大接続における気候市民会議の可能性と教育 DX

C-2-3 【GS】 ジェンダー

座長：水島 希（叡啓大学）

○李 中恵（東京大学）、横山 広美（東京大学）

科学的体験は本当に女子高校生を STEM へと導くのか

○高橋 さきの（翻訳者・お茶の水女子大学）

科学技術史としての文章史：辞書とジェンダー

○渡部 麻衣子（お茶の水女子大学）

イノベーションにおける「技術のジェンダー構造変革論」の一事例としての ISO53800 の考察

D-2-3 【OS】 科学技術イノベーションと公共的責任 — 技術哲学・倫理から考える廃棄物・観光・共創（１）

オーガナイザー：栃内 文彦（芝浦工業大学）

○寺本 剛（中央大学）

除去土壌の処分をめぐる公平性の問題

○紀平 知樹（兵庫県立大学）

オーバーツーリズムと責任ある観光

○直江 清隆（東北大学）

組織における共有責任の問題

E-2-3 【GS】 研究倫理・研究公正

座長：小門 穂（大阪大学）

○上村 大地（国立成育医療研究センター），神里 彩子（国立成育医療研究センター）

倫理審査委員会における形式主義化の予防と事務局機能の役割

○東島 仁（千葉大学），中村 征樹（大阪大学）

オーサiershipに関する認識・規範は研究分野によってどう異なるのか/共通しているのか：国内動向を中心に

○中村 征樹（大阪大学），東島 仁（千葉大学）

二重投稿に関する認識・規範は研究分野によってどう異なるのか/共通しているのか：国内動向を中心に

F-2-3 【GS】 デジタルとSTS

座長：調 麻佐志（東京科学大学）

○成田 吉希（八千代エンジニアリング）

太平洋島嶼国でのデジタル分野における主権概念の整理と課題の考察

○木村 匠（NRI セキュアテクノロジーズ株式会社）

偽情報は「サイバーセキュリティの脅威」か？—サイバーセキュリティをめぐるバウンダリーワーク—

○徐 旭（東北大学）

現代二元論を超えて——テクノ神学・アニミズム・神性倫理の再構築

【第4セッション／日曜日】 15:15-16:45

A-2-4 【GS】 生物と生態系

座長：標葉 隆馬（慶應義塾大学）

○牟田 由喜子（東京科学大学）

在来タンポポの雑種化をめぐる市民の認識と自然観—生物多様性理解における科学知と市民知の交錯—

○川本 思心（北海道大学）

伝書鳩がつなぐ軍学民のネットワーク：1920～40年代遺伝学と社会

B-2-4 【GS】 実践的科学コミュニケーション

座長：定松 淳（東京大学）

○小林 俊哉（九州大学）

STS ステートメントによる科学コミュニケーション教育の長期的効果—九州大学大学院における事例

○有賀 雅奈（桜美林大学）

科学技術コミュニケーションに批判的に関与する「市民」の育成：桜美林大学のプログラム教育の取り組み

○吉田 省子（北海道大学）

寿都町を取り巻く二つの問い：対話の暴力性の自覚と無知の利活用—寿都町シリーズシンポジウム（全3回／2024年11月－2025年6月11日）から浮かび上がること—

C-2-4 【GS】 シチズンサイエンス

座長：渡部 麻衣子

○水島 希（叡啓大学）

ノンスケーラビリティ理論から見る「市民科学」の可能性

○藤田 康元（みんなのデータサイト）

3.11 以後の市民放射能測定活動

○一方井 祐子（金沢大学）

研究者主導型シチズンサイエンスにおける「貢献感」と「達成感」の分析—雷雲プロジェクトの事例から—

D-2-4 【OS】 科学技術イノベーションと公共的責任 — 技術哲学・倫理から考える廃棄物・観光・共創（2）

オーガナイザー：直江 清隆（東北大学）

○栃内 文彦（芝浦工業大学）

工科系カリキュラムにおける技術者倫理教育への「共創」の視点の導入

○北野 孝志（豊田工業専門学校）

RRI の再検討—その問題点と責任に向けた課題

○金光 秀和（法政大学）

技術的意思決定と共責任—技術者と公衆の新しい共創に向けて

E-2-4 【GS】 再生可能エネルギー

座長：寿楽 浩太（東京電機大学）

○立花 浩司（千葉エコ・エネルギー株式会社）

「作動中の科学」としての営農型太陽光発電：社会実装に必要な要素はなにか

○梅沢 泰成（大阪大学）

市民社会セクターによる再生可能エネルギー導入状況の分析

F-2-4 【OS】「量子の未来」をめぐる言説と実践：社会技術的想像力・ハイプ・未来デザイン

オーガナイザー：森下 翔（山梨県立大学）

○森下 翔（山梨県立大学）

「量子の未来」をめぐる社会技術的想像力と技術—資本中心主義：省察性導入のための共創的参与観察

○長門 裕介（大阪大学）

量子技術ハイプの批判可能性要件を探索する

○椎名 遥・岩崎 怜子・佐野 巧馬・永山 翔太（慶應義塾大学）

量子技術を前提とした未来社会デザインのプロトタイピング

△ディスカッサント 河村 賢（大阪経済大学）

凡例

【GS】=一般講演、【OS】=オーガナイズドセッション、○=登壇者、△=ディスカッサント

会場

A 会場=R001 教室, B 会場=R002 教室, C 会場=R003 教室, D 会場=R004 教室, E 会場=R101 教室, F 会場=R102 教室